

Active Cruising

剛よく 柔を制す

TOYO TIRES PROXES T1R

AUDI A6 3.2 FSI quattro



アクティブクルージング篇のサンプルカーはご覧の
アウディA6である。そしてタイヤはプロクセスT1R。
前項のメルセデスで試したCT01のコンフォート性能
をキープしつつ、スポーツ性をも重視したプロクセス
シリーズの棟梁的存在だ。ちなみに同シリーズのス
ポーツ系タイヤとしては、他にサーキット走行も視野
に入れたハイグリップタイヤのR1R、さらには競技専
用となるR888もあるので、ここで取り上げるT1Rは
あくまでコンフォート性を軽んずるタイプのタイヤで
はない。ポジショニングとしては高価なハイパフォー
マンスGT／セダンに照準を定めたタイヤといえるだ
ろう。

さっそく走らせてみる。試乗車はまさらの新品タ
イヤだったが、シャープながらも繊細なハンドリングを
実現していると即断できた。ステアリング直進付近
の応答性に曖昧なところがなく、切り始めからす
っきりカッチリと硬質な手応えが感じられる。CT01と
の比較ではケース剛性の高さが顕著に感じられ、確
かな高速安定性はもちろんコーナー途中でさらに切
り増した際のレスポンスなどもきわめて頼もしいも
のだった。

しかしながら、このタイヤの真骨頂は絶対的な運
動性能の高さにあるのではない。「真骨頂」という
フレーズは、ハイレベルな動的パフォーマンスとコン

フォート性能の両立についてこそ使うべきだ。ケー
ス／トレッド面は強靱ながらしなやかさも兼ね備えて
いるようでタウンユースでの突き上げ感は少なく、ア
ウディならではの高剛性ボディとあいまって高品質な
クルージングをもたらす。騒音もロードノイズ／パター
ンノイズともに純然たるコンフォート系タイヤ並みに
よく抑えられており、とくに舗装種類の異なる路面で
の音量／音質の差が少ない点は長時間走行時の
快適性に大きく寄与することだろう。

総じてTOYO TIRES・プロクセスT1Rはしなやか
な乗り心地と繊細かつ頼もしいドライブフィールを両
立させている希有なタイヤとっていい。そうした好印
象は、ボディやサスペンション周りなど車体のすみず
みまで剛性の高いA6クワトロによるところも少なくは
なからうが、両者の良好なマッチングがあってこそ
好印象であることは間違いないだろう。

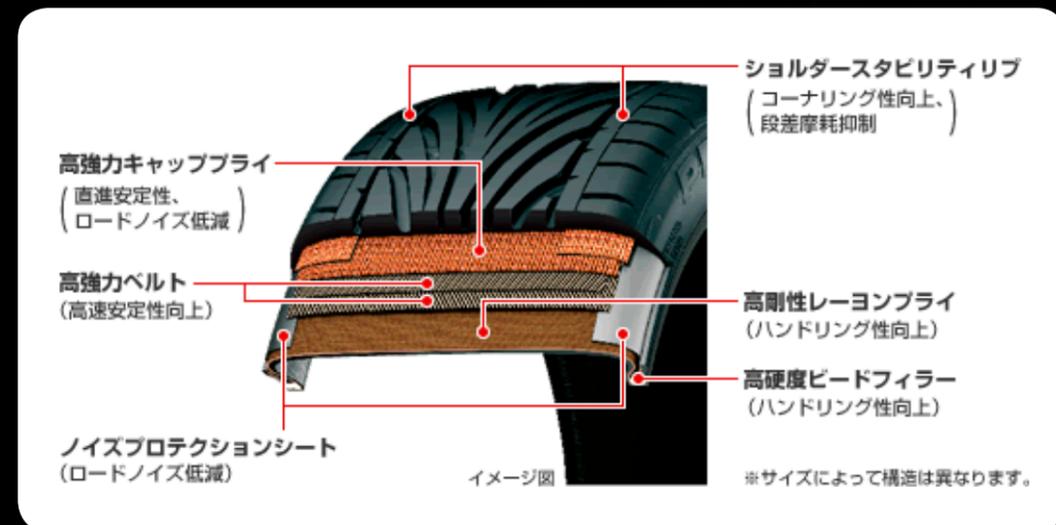
そして同時に今回の取材では、ヤレやタレなどと
いった経年変化のきわめて少ないドイツ車におい
て、タイヤさえ新品にすれば中古車でも新車同然
のドライブフィールを得られる、ということも確認でき
た。中古車購入と同時にタイヤも替えるというのは、
上質なカーライフをリーズナブルに実現するきわめて
有効な手段といえるわけだ。

Photo: 丸山博人



TOYO TIRES・プロクセス T1R 解剖!

TOYO TIRES PROXES T1R



Point 1

【高剛性ケース】

プロクセスT1Rのキャラクターを形成している最も基本的な要件が高剛性ケース。トレッド面やサイドウォール部などの骨格剛性を上げることで高速直進性やコーナリングの安定感を高めている。また、磨耗の起こりやすいショルダー部に特殊な補強部材「ショルダースタビリティリブ」を設置することで、磨耗末期にいたるまで高レベルの運動性能をキープする。

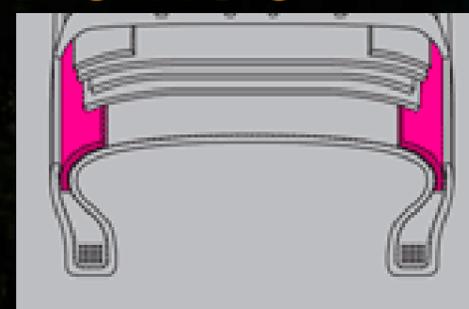
Point 2



【全天候型高性能】

濡れた路面を切り裂くように鋭角に配置されたシャープなパターン形状「Neo Vシェイプパターン」によって排水性能を高め、雨天高速走行での安定性を高めている。オーディオのクワトロシステムと組み合わせれば最強の全天候型GTができあがる。

Point 3



【高度な静粛性】

クルマ全般の静粛性向上にともない、日ごとに重要性を増しているのがタイヤノイズだ。プロクセスT1Rのショルダー内部には高い振動吸収効果を持つ「ノイズプロテクションシート」が仕込まれており、微振動を主要因とするロードノイズを低減した。路面を選ばず高い静粛性を実現している。



取材協力 1
東洋ゴム工業株式会社
<http://toyotires.jp/>
お客様相談室
Tel.0800-3001456



取材協力2
オーディ・アプルーブド世田谷
<http://www.audi-sales.co.jp/>
Tel.03-5752-4455



オーディオA6 3.2FSI クワトロ
2005年式 走行19,400km
車検2009年2月
449万円
シルバーレイク
左ハンドル 6段ティプトロニック
認定中古車保証付き(オプション)レザーパッケージ
/スポーツパッケージ/サンルーフ